

# 教育問題検討委員会主催・地学教育シンポジウム報告

## 「次期学習指導要領における地学教育のあり方」

教育問題検討委員会教育課程小委員会委員長 宮嶋 敏（埼玉県立深谷第一高校）

教育問題検討委員会主催・第3回地学教育シンポジウム「次期学習指導要領における地学教育のあり方」が、連合大会開催の前日、2013年5月18日、幕張メッセ国際会議場を会場にして、49名の参加を得て行われた。過去2回の参加者は小中高教員が主体であったが、今回は大学教員・研究者の参加も増え、標記の問題に関する関心の広がりが見えるようになった。

本シンポジウムは、昨年12月2日に行われた学習会「学習指導要領改訂と地学教育への影響 一次期改訂に備えて」にて明らかになった次期学習指導要領改訂の日程概要をにらみ、地学教育のあり方について根本的・基礎的な議論をするべく開催されたものである。主題に迫る議論の観点として次の4つを取り上げた。

(1) 高校の科目設定をどうするべきなのか（物化生地の形式的対等の堅持？ 総合科目での内容充実？）

(2) 環境教育、防災教育との関係をどうするのか（科目再編もあり得るのか？）

(3) 地学の教員養成をどうするのか（現時点の問題点・課題、今後の提言）

(4) 小中高の地学教育の内容を再編する必要があるか？

上記の観点について次の6人の方々から基調講演をいただいた（写真1）。

### ○鈴木文二氏（春日部女子高校）「幸せになるための理科」

（概要）全ての高校生が学ぶべき科目として、生物について考える理科、宇宙と地球について考える理科、科学と技術について考える理科の3科目を提案した。

### ○根本泰雄氏（桜美林大学）「後期中等教育段

### 階での地球惑星科学教育のあり方

#### 「教科・科目の新しい枠組み設定を目指すべきか？」

（概要）高校段階でのあり方として、環境教育、防災・減災教育の充実も視野に入れ、新しい教科・科目の枠組みを提案した。①基本的に現行学習指導要領の踏襲（基礎を付した科目の全てを必修）、②総合的な新科目の必修（「教養理科」の再提案）、③新科目設定の提案（地学領域に防災や環境を組んだ必修科目）、④新教科設定の提案（「地学」、「地理」、「保健（一部）」、「環境」を含む必修教科）



写真1 基調講演者の講演

### ○相原延光氏（関東学院中学高校）「地球人の科学リテラシーを学校教育にどのように組み込むか？」

#### 「学校環境教育と学校防災教育の実践からみた課題」

（概要）真の意味での「いのちの教育」を実施するには、新たな科目として「自然（地球）環境」「防災または災害」というような科目を立ち上げる必要がある。

### ○川村教一氏（秋田大学）「高校地学教員の養成についての現状と課題：秋田大学教育文化学部を例として」

（概要）教員養成系学部の特徴、大学生の現状および、現代教育事情とその影響を

受ける養成教師像について述べる。

### ○林衛氏（富山大学）「科学リテラシーはなぜ自動的に発揮されないのか」

（概要）阪神・淡路大震災、東日本大震災・原発震災において、地球科学の知見が生かされず、予見されていた被害の未然防止に失敗した。教育内容が、本来の目的やそのための方法と切り離されていることが大きな原因だと考える。

### ○阿部國廣氏（元西有馬小）「次期学習指導要領での地学教育のあり方」

（概要）理科教育が子どもたちの生活とかけ離れたところで行われ、学習する受け手側に理科を学ぶ意識が乏しい。この原因は理科教育の目的が明白でないことにある。こうした点を踏まえ、小中高校理科の在り方を地学を中心に提案する。

総合討論では、今後の検討を進める上で以下の意見や観点が提起された。

・地学に防災、環境の内容まで含ませる必修科目は、内容の多さ、地学教員数の現状から考えると設置困難か。

・地学に対する社会からの要請を見極める必要がある。地学での science for all とは何なのか。

・現行の基礎科目必修が現実的だが、科目の内容を吟味する必要はある。お話になっており、science がない。

・求められる内容に相応しい科目名を新たに考える必要がある。

なお、理科教育の目的を効果的に実現する方法の検討も含め、より具体的な内容を検討するべく、今後早い段階に次のシンポジウムでの議論を行いたい。